

# なるほど! ワクワクながの

ながのご縁を



信都・長野市

～NAGANO検定ジュニアの過去問題にチャレンジしよう～

## ながの し した まつ ぎょうじ 長野市で親しまれている、祭りや行事

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、外に出かけたり、たくさんの方が集まるイベントに参加したりする機会が減ってしまいました。しかし、長野市にはみんなに親しまれ、現在までずっと続いている祭りや行事がたくさんあります。みなさんは、どのぐらい参加したことがありますか？

### ながの とうみょう まつり 長野灯明まつり

「長野灯明まつり」は、平成16年(2004)から始まった祭りで、長野オリンピック開催を記念し、平和を願う精神を後世にのこそうと、毎年冬に開かれています。

五輪の色にちなんで、善光寺を5色の光で照らす「善光寺・五色のライトアップ」や、善光寺の表参道に光のアートを並べる「ゆめ灯り絵展」が、美しく幻想的な光景をつくりだします。



ながの とうみょう まつり  
長野灯明まつり

### えびす こうえん かたいかい えびす講煙火大会

えびす講は、長野市岩石町にある西宮神社の例大祭のことで、毎年11月18日から20日に行われます。多くの露店が立ち並び、かつては冬支度の買い物をするために大勢の人が訪れて、大変にぎわいました。

このえびす講に合わせて、明治32年(1899)から始まったのが花火大会です。日ごとに寒さがつのる時期、犀川河川敷を会場に澄んだ夜空に上がる花火はとても美しく、長野では晩秋の風物詩として親しまれています。



えびす こうえん かたいかい  
えびす講煙火大会

### ながの びんずる 長野びんずる

現在、長野市を代表するイベントとなっているのが、毎年8月に開催される長野びんずるです。一時期途絶えていた弥栄神社の御祭りに代わるものをと、昭和46年(1971)から始まりました。

連と呼ばれるグループが200以上も参加し、中央通りを中心にびんずる囃子に合わせてしゃもじを打ち鳴らしながら踊り歩きます。踊りは比較的簡単で、クラスや育成会等で参加する小・中学生も多く、飛び入りで参加することもできます。



ながの びんずる  
長野びんずる

※今は、それぞれの祭りや行事が、新型コロナウイルス感染症の状況に合わせて、開催の内容を変えたり、中止することもあるので、参加する時は、よく確認しましょう。

Q1

真田十萬石まつりは、松代藩真田家10代の250余年にわたる善政をたたえる祭りです。見どころの「松代藩真田家十萬石行列」は、現当主も信之公として馬に乗って登場します。この現当主は真田家何代の当主でしょうか。

- ① 8代
- ② 12代
- ③ 14代



【NAGANO検定ジュニア第4回(2019年度)出題】 答えはうらの下に



## ながの し ゆかり じん ぶつ 長野市に縁のある人物

芸能人やスポーツ選手、ミュージシャン等で「長野市出身」と聞くと自然に応援したくなりませんか？みなさんが生まれた時代よりずっと前ですが、大活躍した「長野市に縁のある有名人」を紹介します。

### 【劇団・芸術座を結成し、数々の舞台でヒロインを演じた新劇女優】松井 須磨子

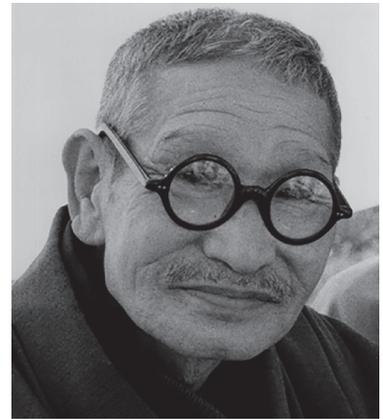
松井須磨子（本名・小林正子 明治19年(1886)～大正8年(1919)）は、明治・大正を代表する新劇女優です。明治43年(1910)、坪内逍遙が主催する文芸協会の第1回公演「ハムレット」でヒロインのオフィリアに抜擢され、翌年の「人形の家」のノラで喝采を浴びます。しかし、演出家・島村抱月との恋愛問題で文芸協会を追われ、大正2年(1913)に抱月とともに芸術座を結成します。そして、「復活」のカチューシャ役で大人気となりましたが、抱月が急死すると、その後を追って、自ら命を絶しました。



松井 須磨子

### 【幼少より書を学び、書道界で初めて日本芸術院賞を受賞した書家】川村 驥山

川村驥山（明治15年(1882)～昭和44年(1969)）は、明治から昭和にかけて活躍した、日本の書道界の第一人者として知られています。静岡県に生まれた驥山は、幼い頃から漢学者の父・東江らから書と漢詩を学び、12歳で明治天皇の銀婚式に書を献上し、神童とたたえられます。太平洋戦争末期、戦火を避けて篠ノ井へ疎開したのをきっかけに、長野へ移住し、昭和26年(1951)、書道界で初めて日本芸術院賞を受賞しました。



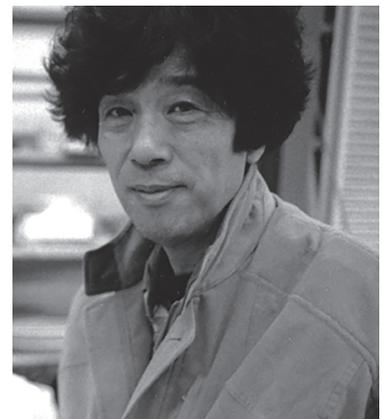
川村 驥山

ゆかりの深い長野市篠ノ井には、貴重な作品を常設展示する、財団法人驥山館があります。

篠ノ井は「書道の街」として地域おこしにも取り組んでいます。

### 【版画、小説、映画などさまざまな分野で活躍したアーティスト】池田 満寿夫

池田満寿夫（昭和9年(1934)～平成9年(1997)）は、版画家をはじめ、小説家、映画監督などとして国際的に活躍した多才なアーティストです。旧満州国に生まれ、終戦後に両親の出身地である長野市に引き揚げて、長野北高校（現在の県立長野高校）を卒業します。昭和35年(1960)、第2回東京国際版画ビエンナーレ展で文部大臣賞を受賞します。また、昭和52年(1977)には小説『エーゲ海に捧ぐ』で芥川賞を受賞しました。同小説の映画監督もしました。



池田 満寿夫

Q2

「ハムレット」でヒロインのオフィリア、「人形の家」のノラ、「復活」のカチューシャを演じた松井須磨子（本名 小林正子）は、明治・大正を代表する新劇女優です。どこの出身でしょうか。

- ① 松代町      ② 篠ノ井      ③ 若穂

【NAGANO検定ジュニア第4回（2019年度）出題】 答えは下に

答え Q1 ③ Q2 ①